



令和最初となる第65回関東地区高等学校PTA連合会大会が、7月12日(金)、13日(土)に行われました。本県さいたま市大宮ソニックシティでの開催でした。当日は朝から小雨模様の梅雨寒で、大宮駅から会場への誘導担当係も、緑色ボロシヤツにカッパ着用にて、案内に専念していました。

全体会報告

県立三郷高等学校

PTA会長 嶋根 幸一

第65回関東地区高等学校PTA連合会大会 埼玉大会

埼玉県高P連だより

第87号

令和2年2月1日

埼高P連
調査広報委員会



いて熱く語り、地域や学校の教育力向上への期待を述べられました。表彰では、これまでのPTA活動に功績のあつた個人44名と12団体に、表彰状が贈されました。

続いて、大会宣言文が本県高P連事務局長により提案され、採択されました。「絆を深め、新しい時代を担う子どもたちを育てよう」をメインテーマとした埼玉大会のスローガンが、共有されました。サブテーマである、「令和の夏、学び続けるPTAの熱い風が吹く」も、まさに現代を表わす言葉でした。

そして、次回開催地が群馬県であることが発表され、群馬県高P連の大澤会長から、開催へ向けた力強い決意が表明されました。

【自身の体験から】

日本人は、「三人に一人はガンになる」「三人に一人はガンで死亡する」。言い換えれば、日本人は、ガンになるまで生きられるということです。マサイ族は、十才まで生きられない現実があります。日本は、「ガンになるまで生きられる」長寿国です。いつかは死ぬが、限られた時間でどう生きるかが重要だと思います。

私の体験から、早期発見と、患者としての気の持ちようが重要だと伝えたいです。遺言をノートに記録し保管するなどして、ハッピーライメーџを持つてほしいです。

【開会式】

開会式では、来賓祝辞として、上田知事が、734万県民を代表して挨拶をされました。知事は、時代が動いていく中でいかに生きるか、若者が迎えてくれました。

全体会会場である大宮ソニックシティの大ホール入口では、コバトン



【記念講演】

全体会に続いて、記念講演が行われました。講師は、本県出身でタレントの向井亜紀さんでした。テレビ番組「朝だ！生です旅サラダ」の司会でも大活躍中の向井さん。事務所の関係で、写真掲載は不可でしたが、以下のような、感動的な体験談をお話いただきました。

【講演を拝聴しての感想】

本日は、会場に多くの校長先生が

いることに緊張しています。高校生である自分の子どもは、私の代理出産を理解しています。皆の支えにより生きていることを感謝しています。本日の演題「夢が生きる力になる」は、一母親としての本音です。

埼玉大会

分科会報告

第一分科会 「学校教育とPTA」

県立飯能高等学校
PTA会長 加藤 邦宏

第一分科会「学校教育とPTA」では、約400名の参加者を得て開催されました。山梨県立都留興譲館高等学校より「PTA活動への関わり」について発表され、NPO法人フレーバンクに参加し、年2回行っているスクールフレードライブというユニークな事業が紹介されました。県下一斉登校指導での駅前挨拶運動などの参加等についても素晴らしい活動との講評がありました。



第1分科会 都留興譲館高校(山梨)発表の様子



第1分科会 山北高校(神奈川)発表の様子

第二分科会 「進路指導とPTA」

県立日高高等学校
後援会副会長 根岸 桜

第二分科会「進路指導とPTA」は、約700名の参加を得て開催されました。まず、「潮来高校PTA活動 10年のあゆみ」と題して、茨城県立潮来高校の根本PTA会長から、PTAの学校支援活動として、様々な学校行事や教育活動への関わりを発表されました。なかでも、生徒が安心安全に通学できるように、PTAがバス業者と一緒にしてチャーターバスを運行していることは、会場の参加者も大変興味をもつていていたようでした。

続いて「至誠惣恒の進路サポート」と題して、栃木県立真岡高等学校の樋口PTA会長から発表がありました。「日本一熱い男子校」を目指す学校に対して、PTAも駅伝大会で生徒に豚汁をふるまつたり、多くの進路行事に対し熱心にサポートしたりしています。東京大学等への大学視察研修は、毎年定員を上回る希望者が集まる大人気の行事だそうです。

二校の発表に対して、県立所沢北高等学校の高橋校長先生が指導助言を行いました。

第三分科会 「生徒指導とPTA」

県立飯能南高等学校
PTA会長 逸見 俊彦

群馬県立渋川高校は「文武両道を支えるために」と題し、学校評価アンケートから保護者と学校の協力関係を築く取組を発表。学校生活の満足度が高いもののPTA活動が保護者に届いていないと分析する。学校web充実への期待が高い

全員に実施し、82%と高い回答率を得て、沢山の改善点、問題点などが明らかになつたと説明がありました。また、PTA活動に関するアンケートを保護者全員に実施し、82%と高い回答率を得て、沢山の改善点、問題点などが明らかになつたと発表されました。

指導助言では、これからPTAに求められているのは、「学校と保護者が絆を深めあって子供達の未来を明るくしていくための活動」との助言を頂きました。

つながり、情報共有を通して教育活動への理解を深める支援をしてゆきたい。当日は強豪校と高校野球の試合中で、御子息を応援する埴田会長に代わり清水氏が発表。会場からも応援があり、和やかな協議となつた。埼玉県立ふじみ野高校は県内唯一のスポーツサイエンス科を擁し、就職者も多い。

「地域に愛され、地域に貢献できる人材育成のためにできることは」と題し、PTAの「声掛け運動」を中心に大人と触れ合う機会をつくり、日常的にあいさつを実践させる取組を発表。修学旅行の飛行機に乗り合わせた方がラジオ番組に投稿、「誰一人スマホをいじる者がなく礼儀正しい」と放送されたことが成果を物語っている。

第四分科会 「家庭教育とPTA」

県立滑川総合高等学校
PTA監事 渡邊 舞

第四分科会では「家庭教育とPTA」について発表が行われました。最初に、栃木県立矢板東高等学校・同附属中学校の「中高一貫子供と歩むPTA」についてが発表されました。保護者同士、保護者と教員の繋がりを作るために、それぞれの支部において中学生と高校生の保護者の交流、各支部を担当する教員が、地域毎の特性や問題点を把握し保護者との交流を行なっています。また授業参観だけでなく、親子授業や学習会を行い、保護者同士の連携を取るために、保護者会にて横の関係、支部活動にて縦の関係を構築、各種学習会では教職員は保護者の支援を行なっています。



第4分科会 会場全体の様子

第五分科会 「安全教育とPTA」

県立浦和工業高等学校
PTA会長 中野 麻貴子

第五分科会「安全教育とPTA」では、「HUGをやつてみた」をテーマとし、県立越谷南高校が実践報告をしました。HUGとは、「H（ひなんじょ）U（うんえい）G（ゲー）ム」の略で、学校に沢山の地域住民が学校に避難してきたらどうすべきかをシミュレーションし、保護者・教員・生徒がチームを編成して、ゲーム形式で仮想体験をするものです。



第5分科会 越谷南高校発表

勉強に部活動行事に全力で取り組んでいます。高校生にとつての家庭教育について、高校、先生、生徒つまり自分の子どもの力を信頼し、親は一步下がつて見守り、助けを求められたときは快く応援ができるようとに力説されていました。

パネルディスカッションでは、HUGをやつてみて困ったこと、実際に災害が起つた場合を想定して、改善すべき点などについて意見が出されました。

その後、学校安全教育研究会代表で明海大学客員教授の戸田芳雄氏に指導助言をいただきました。「実際にやつてみると、確かに課題が見つかる。地域を交えて具体的な避難訓練をしてみると、更に課題が整理されるだろう」というご指導をいただきました。

今回の発表を通じて、高校教育における安全教育とPTA活動の在り方等について認識を深めることができました。

第65回関東地区高等学校PTA連合会大会埼玉大会報告

「PTAの皆様の活動の様子」

県立浦和工業高等学校

PTA会長 中野 麻貴子

7月12日(金)、13日(土)に第65回関東地区高等学校PTA連合会大会埼玉大会が大宮ソニックシティを会場にして行われました。昨年度から埼玉大会実行委員長である前埼玉県高等学校PTA連合会小林晋会長を中心に入念に準備を進め、多くの方々のご協力をいただきながら無事に埼玉大会を終了することができました。

前日の11日(木)は9時15分に実行委員が集まり、全員で手提げ袋に資料を詰め、各担当でテーブル等のセッティング、会場設営、大ホールの案内や控室等の表示を行いました。みんなで協力しながらテキパキと作業を済ませ、ほぼ午前中に準備が整いました。

12日の全体会当日はあいにくの雨となってしまいましたが、8時30分に集合し、各支部の実行副委員長を中心に大会の運営に当りました。東部支部は草加西高校が中心となり、総務担当として、諸会議の運営や来賓や表彰者の案内、会計など全

体に関わることを担当しました。6月10日の総会後の打合せから東部支部の業務を詳細にまとめたマニュアルの作成に入り、作業の住み分けができてからは、各学校が何をすればよいか把握できるようになり、準備がスムーズに進むようになりました。

当日は、VIPや記念講演講師、来賓、役員、受賞者の対応等、神経を使いつつ参加者の配列に不手際があつたり、参加者を歓迎しました。受付を待つ喫煙者への対応が不十分であつたりしましたが、大会参加者からは「良かったよ」「埼玉の人って温かいね」といったお褒めの言葉をいただきました。大会に携わった全ての方々が一丸となつて笑顔で大会を終えることができ、感極まるものがありました。

西部支部は新座高校が中心となり、受付及び講演会やアトラクションなどの運営を担当しました。受付については、大人数のお客様が短時間に来館することを念頭に、「最後尾はこちら」などの看板を作り、万全の態勢で準備を進めました。その結果、大きな混乱もなく他県からのお客様をお迎えできました。アトラクションでは、埼玉県の高校生が元気に活動する姿を見てもらおうということです、大宮光陵高校の管弦楽部、松伏谷高校PTA・OGによるコーラスの演奏・演技を組み込みました。熊

明会を行つたりして、仕事内容を具體的に把握することができました。大会当日は、各係のリーダーを中心に運営協力者の皆さまが臨機応変に対応してくださいり、役割をスムーズに実施できました。他地区のPTA役員の方々との交流を通じてたくさん仲間ができて本当に良かったです。

南支部は総合受付、荷物の一時預かり、駅周辺や会場の案内、昼食の配付などの業務を担当しました。小雨の降る中、大宮駅から会場までの各所で参加者が迷わないよう声をかけて案内をしました。会場入口付近では、コバトン、さいたまつちが大会参加者を歓迎しました。受付を待つ参加者の配列に不手際があつたり、喫煙者への対応が不十分であつたりしましたが、大会参加者からは「良かったよ」「埼玉の人って温かいね」といったお褒めの言葉をいただきました。大会に携わった全ての方々が一丸となつて笑顔で大会を終えることができ、感極まるものがありました。

昨年度から通算で8回の実行委員会を開催して準備を進めてきましたが、ホスト県として他県のPTAの皆様に喜んでいただき光榮に感じます。実行委員並びにご協力いただいたPTA・後援会の皆様、本当にありがとうございました。

北部支部は深谷高校が中心となり、全体会救護係として体調不良者等の対応、大会全般の記録・録音係として大会全般の録音と要点の記録など、それ以外では大会1日目の分科会打ち合わせの受付と会場までの案内を担当しました。準備段階では、具体的な仕事内容や会場のイメージが分からず苦労しましたが、会場視察を行つて会場のイメージをつかんだり、7月2日に各地区の運営協力者会議説明会を行つたりして、仕事内容を具



実りあるPTA活動の紹介～専門委員会研修会の報告～



今年度の埼玉県高等学校PTA専門委員会研修会が、11月15日(金)と26日(火)の両日、さいたま市民会館うらわで開催されました。朝早くから各高等学校の多くのPTAの皆様に集まつていただきました。

【11／15(金)午前・生徒指導】

生徒指導の専門委員会の逸見俊彦委員長(県立飯能南高等学校PTA会長)の挨拶から始まり、四校の学校教育に関するPTA活動の取組が発表されました。

まず最初に、県立草加高等学校が「本校PTAにおける生徒指導」と題して、発表されました。普通科高等学校として、進路指導に力を入れながらも、以前より朝の通学路の交通安全指導等を教員中心で行い、地域の安全も意識して行っています。生徒指導関係のPTAの専門委員会は設置しておりませんが、本部会をはじめ各専門委員会が、相互に連携協力して子供達のために教育活動に積極的に関わり、PTA活動の充実発展が大切だと考えております。

二校目の県立所沢中央高等学校は、通学手段として何らかの形で自転車を使う者が全体の75%、バスを使う者は33%。バス乗車指導も行っています。また、PTAの方が積極的に地域清掃活動も行っています。さまざま

ざまな機会を捉え、お互いが理解し合い、信頼し合うことを目指したPTAの活動が行われています。今回のテーマである「生徒指導とPTA」もまた同様に、理解し合い、信頼し合うことがその根底にあると考えています。

三校目の県立川口北高等学校は、「PTA活動と生徒指導」学校の応援団としてと題して発表されました。学校行事や部活の試合等生徒が活動する場について保護者の立場から応援したり、手伝うことを通じて生徒指導を行っています。子供たちの成長を願い、先生方と共に応応する場面が持てるPTAであり、親子共々楽しく希望の持てる生徒指導を行っています。

発表校（生徒指導）

四校目の県立鴻巣女子高等学校は、補導委員会が生徒指導や交通安全指導、年2回学校周辺にて登下校の様子を観察して生徒の安全指導を行うほか、生徒の安全とマナー向上にも努め、薬物乱用防止教室にも参加し、家庭での話題にしています。



四校目の県立鴻巣女子高等学校は、補導委員会が生徒指導や交通安全指導、年2回学校周辺にて登下校の様子を観察して生徒の安全指導を行うほか、生徒の安全とマナー向上にも努め、薬物乱用防止教室にも参加し、家庭での話題にしています。

四校目の県立鴻巣女子高等学校は、補導委員会が生徒指導や交通安全指導、年2回学校周辺にて登下校の様子を観察して生徒の安全指導を行うほか、生徒の安全とマナー向上にも努め、薬物乱用防止教室にも参加し、家庭での話題にしています。

四校目の県立鴻巣女子高等学校は、補導委員会が生徒指導や交通安全指導、年2回学校周辺にて登下校の様子を観察して生徒の安全指導を行うほか、生徒の安全とマナー向上にも努め、薬物乱用防止教室にも参加し、家庭での話題にしています。

四校目の県立秩父農工科学高等学校では、「絆」について、発表されました。秩父農工科学高等学校は、創立119年目の伝統校。「勤勉努力・質実剛健・規律節制・至誠一貫・協同和親」を校訓に、「秩父地域の産業と未来を支えるスペシャリストの育成」を目指す学校像に掲げ、秩父地域の産業や文化を支え、日本の未来を担う



発表校（高校教育とPTA）

「大学入試者選抜改革の動向について」

加藤善一様の講演

午後は、文部科学省高等教育局高等教育部企画課 専門官 加藤善一様の講演がありました。内容は、高大接続改革や大学入学共通テストについて等のご講演をされました。親子で、今後各学校と大学と連携して学習意欲を維持する事等お話をされました。

家庭において親子で何の為に大学に入るのかを話してほしいと力説されました。

三校目の県立南稊高等学校は、「コミュニケーション力で生徒の成長を応援」について発表されました。4つの部会があるPTA、素晴らしい取組みを実践され、特に年2回の学校評議員会の開催後に、「ワールドカフェ」を開催。これからも学校・生徒・地域・保護者とともに、コミュニケーションを図りながら、それを尊重し、大いに生徒の成長を見守つていくとまとめられました。

四校目の県立秩父農工科学高等学校では、「絆」について、発表されました。秩父農工科学高等学校は、創立119年目の伝統校。「勤勉努力・質実剛健・規律節制・至誠一貫・協同和親」を校訓に、「秩父地域の産業と未来を支えるスペシャリストの育成」を目指す学校像に掲げ、秩父地域の産業や文化を支え、日本の未来を担う

かも発表されました。

二校目の県立所沢商業高等学校は、「PTA活動における保護者と学校の負担軽減」と題しての発表でした。

働き方改革の社会、「働く人々が個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を自分で選択できるようにするための改革」であり、生徒が主体的に取り組み、大人は援助支援していく活動と力説されました。

育成するための取組みを発表されました。

【11／26（火）午前・進路指導】

進路指導専門委員会の宮川知子委員長（県立越ヶ谷高等学校PTA会長）の挨拶後、四校の進路指導に関するPTA活動の取組が発表されました。

一校目の県立春日部高等学校は、「春日部高校PTAによる親子で学ぶ進路指導」と題しての発表でした。創立120周年式典が行われた伝統校です。PTAによる大学見学会においては、千葉大学や早稲田大学等を見学した際、春日部高校出身の大学生等による大学の紹介がありました。今後もPTAが学校と連携を深めることが重要であることを力説され、これからも「親子で学ぶ」進路指導に関する活動をしていくとまとめられました。

二校目の県立新座柳瀬高等学校は、「とことん面倒を見る！やなせ」と題しての発表でした。PTAの皆様も生徒の模擬面接の指導も行い、人と人がふれあい、コミュニケーション力を身に付けた生徒に育つてほしい気持ちで接しています。今後とも、新座柳瀬高校は、「学校」「家庭」「地域」が一体となつて、生徒一人一人の、確かな成長をサポートしていくきます。

三校目の市立浦和高等学校は、「子どもへの諦めないサポート」と題し、発表されました。保護者の皆様も新

学習指導要領の目玉である「アクティブラーニング」について学び取り組んでいます。生徒達が持っている潜在能力をいかに引き出し、グループ学習における課題解決の大切さを学んだ報告がありました。

四校目は、県立小鹿野高等学校の「地域を担う人材育成とPTAの取組」と題して発表されました。特にスタディサプリを使つた取り組み事例や秩父鉄道とのコラボレーションで「竹あかり」号のヘッドマークでSLを走らせ、生徒も乗務したことの報告もありました。コミュニケーションを図り、PTAの絆を強くし、学校教育活動の充実を目指していく事の重要性の発表でした。



【11／26（火）午後・家庭教育】

「18歳成人年齢に伴う消費者トラブル防止について」

窪田久美子 様の講演

午後は、公益財団法人日本消費者生活アドバイザー・コンサルタント相談員協会 理事・消費者教育委員長 窪田久美子様らの講演会がありました。成人年齢が18歳に引き下がれ、ローン契約も自らできるようになります。今後、消費者トラブルに遭わないようするための講演会でした。大宮高校の3名の役員の方にも寸劇の協力していただきました。

後半は、家庭教育専門委員会の茂垣弘子委員長（県立大宮高等学校PTA会長）の挨拶から始まりました。最初に、県立久喜高等学校の「家庭教育とPTA～子供たちの安心・安全を支えるために～」と題し、発表でした。創立101年目を迎える久喜高等学校は伝統ある女子校です。「地域に貢献する伝統校として、豊かな人間性と教養、たくましさを備え、社会で活躍できる生徒を育てる」とし、日々教育活動に勤しんでいます。特に自然災害から生徒を守る事について発表され、「行動覚書」の活用は素晴らしい、PTAが備蓄品等を備えました。生徒の「安心・安全を支える」原点に立ち返る素晴らしい発表でした。

二校目は、市立川越高等学校の「家庭教育とPTA～」と題し、発表されました。創立94年目を迎える伝統校です。文部科学省HP「家庭教育」から入り、学校での様々な出来事を子供とよく話し合うと説明をされました。家庭教育の原点です。「不易と流行」と言葉があります。家庭教育は、「不易」ですが、「時代の「流行」にあわせたスマートなPTA活動を実施していくことが「家庭教育」の向上にも繋がります。

最後は、県立熊谷商業高等学校の「100年の歴史と新たな学校づくり」の発表です。熊谷駅構内で販売実習等行い実践活動も行っています。また、令和2年度から「総合ビジネス科」として、新しい熊谷商業高校が誕生します。新しい制服選定にもPTAの皆様も関わりました。また、家庭教育の「犬猫みなしご救援隊」中谷百里代表による講演会がありました。日々のPTA活動をとおして、家庭教育の大

業生や卒業生保護者から知りたい情報を得て元気になつた保護者が、それを家庭に持ち帰り子どもと共にできる。すなわち「家庭教育」につながる行事として紹介されました。

ちなみに、親に言われて嫌なことは「頑張れ」（言われなくとも頑張っている）やつてもらつて嬉しかつたことは、「黙つて見守ってくれたこと」だそうです。

最後は、県立熊谷商業高等学校の「100年の歴史と新たな学校づくり」の発表です。熊谷駅構内で販売実習等行い実践活動も行っています。また、令和2年度から「総合ビジネス科」として、新しい熊谷商業高校が誕生します。新しい制服選定にもPTAの皆様も関わりました。また、家庭教育の「犬猫みなしご救援隊」中谷百里代表による講演会がありました。日々のPTA活動をとおして、家庭教育の大

きな命の大切さについて講演されました。また、家庭教育の大



発表校の紹介（家庭教育）



消費者トラブル防止講演会

東部支部

県立春日部高等学校
PTA会長 小林 淳一

東部支部は、10月20日(日)・21日(月)の2日間で、37校から160名を超える方の参加により、長野県の松本市方面で研修旅行を実施しました。台風19号の影響もあり、大幅に予定を変更することとなりました。

初日はバス内で各学校の概要やPTA活動についての発表を行い、情報交換を行いました。長野市内で昼食を済ませ、宿泊先に向かいました。宿泊先では研究協議会を開催し、久喜高校・蓮田松韻高校・春日部高校・草加高校から学校の概要やPTA活動の特色ある取組についての発表があり、今後のPTA活動に参考となる研修となりました。

二日目は松本大学を訪れ、榎本教授による健康づくりについての講演をいたしました。日常簡単にできるトレーニング方法が紹介され、講演終了後に早速試している方がいるほど、有意義な研修となりました。

今回の県外研修旅行では、年度当初からの準備や計画、運営など、幹事校の吉川美南高校のご尽力により、充実したものとなりました。また、ご参加いただきました関係各校のご協力にも感謝申し上げますとともに、今回の研修旅行を通じて、各校PTAの連携が深まりますことを祈念いたします。



西部支部

川越市立川越高等学校
PTA会長 平田 雅彦

西部支部役員等研修会は、10月22日(火)川越市ウエスタ川越の多目的ホールを貸し切って開催しました。

例年であれば、1泊2日で計画しておりましたが、今回初めて1日で研修会と懇親会を行いました。

様々な意見が出た中、現状では2日休みを取ることが難しいとの事が始まりました。結果的には例年では200名弱の参加でしたが今回42校320名の方々に参加して頂きました。

講演会ではラジオDJでご活躍中のレモンさんこと『山本シユウ』さんを招いて『家庭・地域・学校の協働による豊かな教育の実現に向けて』という演題で素晴らしい講演を行っていただきました。レモンさんは、過激なパフォーマンスでみんなを圧倒。そしてみんなの心にビタミン剤を注入して頂き、みんなが笑顔になりました。

今回参加して頂いたPTA役員の皆様のご協力により、実りのある充実した研修会となりました。



皆の心にビタミン剤を注入中の
レモンさん

南支部

県立桶川西高等学校
PTA会長 横田 美緒

10月20日(日)～21日(月)、台風19号通過直後で開催自体も危ぶまれましたが、道路や研修先の状況を確認しつつ福島県母畠温泉にて、40校230名で東日本大震災の復興状況の視察と震災学習をテーマとした研修会を行うことができました。

初日はバス内で各校PTA活動を発表し、福島県クイズ等により研修先の理解を深めました。見学地小峰城の復元された石垣が見事でした。到着後「復興を支える人の繋がり」という題で青木淑子様にお話し頂きました。

崩壊と創生の狭間で、東日本大震災のその後を語る」という、富岡町を中心としたお話は胸に迫ることばかりで、建物はお金があれば建つが、人は決意と覚悟が無ければ集まらない。という言葉が重く響きました。

研究協議では南稜・市立浦和・川口北・大宮の各高校からPTA活動について具体的な発表があり4校とも大いに参考になる内容でした。



北部支部

県立熊谷高等学校
PTA会長 針ヶ谷 諭

北部支部では、10月27日(日)～28日(月)の2日間、23校123名で栃木県にて1泊2日の県外研修を行いました。10月12日に上陸し、各地に甚大な被害をもたらした台風19号による影響が心配されました。が、研修先への被害がなかつたため、無事に実施することができました。

初日は大谷寺、大谷観音を見学し、那須森のビール園で昼食後、ロイヤルホテル那須にて専門委員会研修会を実施しました。研究部門の高校教育では秩父農工科学高校、進路指導では小鹿野高校、生徒指導では鴻巣女子高校、家庭教育では熊谷商業高校が発表を行いました。各校とも資料や説明がとても充実した内容で大変有意義なものとなりました。

二日目は御菴子の城那須ハートランド、もみじ谷大吊橋、益子焼窯元共販センター、大前恵比寿神社を訪問しました。

現在、北部地区では学校統廃合問題に直面していることから、懇親会などで率直な意見交換を行い、様々な声を聞けたことは特に大きな収穫でした。



つつ、現地を訪問したからこそ分かる濃い内容の研修となりました。皆様のご理解ご協力に深く感謝申し上げます。

支部役員等県外研修報告

第69回全国高等学校PTA連合会大会

京都大会に参加して

県立深谷第一高等学校

PTA会長 青木 敦子

【記念講演】

日本電産株式会社代表取締役会長である永守重信氏より、「学校教育

・家庭教育に思うこと」というテーマで講演をいただきました。

(木)・8月23日(金)の二日間にわたり、京都市勧業館みやこめつせ及びロームシアター京都を会場として開催された。

メインテーマは「kyoから!未来を拓く!受け継ぎ、創る新たなストーリー」。昨年同様、それぞれの分科会場に映像配信を行う会場分散型の大会となりました。

【開会式】

開式の辞と国歌斉唱の後、大会実行委員長である奥野貴史氏は、本大会がこれまでの大会の集大成となり、新しい形式になる次の大会への架け橋となることを願い、本日まで取り組んできたことを述べられました。

全国大会会長表彰を個人では大宮光陵高校の関口光氏、深谷高校の野中誠氏、新座高校の村田あゆみ氏が受けました。団体では、草加西高校PTAと児玉白楊高校PTAが受けました。役員等表彰は、埼玉県高P連会長小林晋氏が受賞しました。

いう間の90分となりました。



▲記念講演

【アトラクション】

一日目は、京都府立工業高等学校の吹奏楽部 Manbou Jazz Band によるバンド演奏、二日目は京都府立塔南高等学校の吹奏楽部である塔南マーチングバンド・ザ・グリフオニズによるマーチング、また、京都府立鳥羽高等学校の披講研究部による和歌の披露がありました。

披講とは、「和歌を節をつけて詠み上げる」ことであることが説明され、単衣や狩衣のような衣装を着た生徒たちが現れて、和歌を見事に詠みあげました。

他にも、英語は会話ができることが第一優先であることを熱く語り、英語を話すことができる人材を採用することが肝心であると述べられました。

永守氏は、自身も五十年先の計画を立てていることを明かし、理想を持つて高い目標を追うことが大切だと強く断言していました。時間が足りないほど質問が飛び交い、あつと

第3分科会..すぐその未来のしごとについて考える

- 第4分科会..高校生の人間関係について考える
- 第5分科会..情報教育を体験する
- 第6分科会..わが子の進路選択にどう向き合う?

【閉会式】

分科会報告の後、閉会式が行われました。全国高P連旗が次期開催地である島根大会実行委員長に引き継がれ、二日間盛大に行われた京都大会は無事に終了いたしました。



▲アトラクション



▲第6分科会

「単P紹介」

県立羽生実業高等学校

校長 染野 雅紀

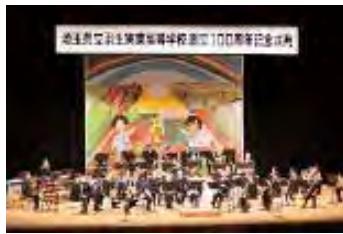
本校は大正8年、地域農業の振興と農業後継者の養成を目的に、羽生町外五か村の学校組合立、羽生農業学校として開校しました。大正12年に商業科を併置。その後昭和24年に県立に移管し、校名を埼玉県立羽生実業高等学校に改称し、幾度か学科の再編を経て、現在はビジネス会計科、商業科、情報処理科、園芸科、農業経済科の五学科編成です。

社会に有為な産業人の育成のため、生徒にわかる、伸ばす授業を実践し、

社会で活躍し、地域に貢献する人づくりに取り組んでいます。地域貢献にも力を入れ、世界キャラクターサミットin羽生へのボランティア参加や、近隣のこども園・小中学校との交流など通して、コミュニケーション能力の向上、企画力の育成に取り組んでいます。部活動では、五年連續で全国大会に出場し、平成28年度は高校総体、国体優勝をしたるアレンジメント部門を中心に多くの

エイトリフティング部、11年連続全国大会出場の農業クラブのフラワー部が熱心に活動しています。

創立百周年に向けて、同窓会正能会長を委員長に平成30年7月に創立百周年実行委員会を組織しました。



この百周年を新たな出発点として、次の百年に向けさらに成長、発展していく所存でございます。

この百周年を祝い、百周年記念式典を10月16日に開催いたしました。記念講演会では女優の工藤夕貴様をお迎えし、自らの経験をもとに農業や将来についてご講演いただき、警察音楽隊と吹奏楽部の共演で式典を盛り上げ、成功することができました。



記念式典の準備、記念誌発行、記念整備事業の検討など同窓会、PTA、後援会、教職員、生徒が一体となり、百周年に向けた準備に当たりました。特に、農業系の生徒は学校で栽培した小麦粉で記念クッキーを焼き、ラベルを商業系の生徒がデザイン、記念式典の会場に掲示するなど、大いに頑張ってくれました。そして知事、教育長をはじめとするご来賓をお迎えし、百周年記念式典を10月16日に開催いたしました。記念講演会では女優の工藤夕貴様をお迎えし、自らの経験をもとに農業や将来についてご講演いただき、警察音楽隊と吹奏楽部の共演で式典を盛り上げ、成功することができました。

令和元年度 埼玉県高等学校 PTA連合会役員

役職(支部)等	氏名	所属学校	職名	役職(支部)等	氏名	所属学校	職名
会長	小島 久幸	熊谷女子高校	後援会会長	理 事 会 部	中野麻貴子	浦和工業高校	PTA会長
東部支部長	小林 淳一	春日部高校	PTA会長		茂垣 弘子	大宮高校	PTA会長
西部支部長	渡邊 智恵	市立川越高校	PTA副会長		加藤 京子	蕨高校	PTA会長
南部支部長	横田 美緒	桶川西高校	PTA会長		阿部 正己	岩槻高校	PTA会長
北部支部長	針ヶ谷 諭	熊谷高校	PTA会長		山口 知子	上尾橘高校	PTA会長
東部	深津 久実	越谷南高校	PTA会長	事 務 局	秋山 佳子	桶川西高校	校長
西部	矢部 努	坂戸西高校	PTA会長		関根 憲夫	浦和工業高校	校長
南部	橋本 淳	上尾南高校	校長		安食 邦明	大宮高校	校長
北部	中村 篤	熊谷西高校	校長		水石 明彦	蕨高校	校長
理 事 会 部	嶋根 幸一	三郷高校	PTA会長		大勝 浩司	岩槻高校	校長
	宮川 知子	越ヶ谷高校	PTA会長		鈴木 健	上尾橘高校	校長
	森 富美	宮代高校	PTA会長		青木 敦子	深谷第一高校	PTA会長
	枠田 幸弘	春日部女子高校	PTA会長		坂本 裕司	進修館高校	PTA会長
	田口 恵子	草加東高校	PTA会長		菊池 智之	熊谷農業高校	PTA会長
	加藤 鉄也	草加西高校	PTA会長		黒澤 栄則	秩父農工科学高校	PTA会長
	坂上 節	春日部高校	校長		持田 紀恵	熊谷西高校	PTA会長
	岡 雅昭	三郷高校	校長		野崎 静枝	吹上秋桜高校	PTA会長
	梶尾 勝則	越ヶ谷高校	校長		浅海 純一	熊谷女子高校	校長
	鎌田 勝之	宮代高校	校長		武内 道郎	熊谷高校	校長
事 務 局	鈴木 徹也	春日部女子高校	校長		小野澤範久	深谷第一高校	校長
	須賀 重和	草加東高校	校長		水野 浩	進修館高校	校長
	関 正一	草加西高校	校長		葦塚 光信	熊谷農業高校	校長
	小沢 正朗	滑川総合高校	PTA会長		加藤 秀昭	秩父農工科学高校	校長
	逸見 俊彦	飯能南高校	PTA会長		永井 一博	吹上秋桜高校	校長
	千葉まゆみ	所沢北高校	PTA会長		木田 一彦	事務局長	
	村田あゆみ	新座高校	PTA会長		濱野 美加	書記	
	鈴木 夏子	小川高校	PTA会長		中川 則子	書記	
	西木 成男	市立川越高校	校長				
	道祖土 悟	滑川総合高校	校長				

埼玉県高等学校 PTA連合会事務局

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤3-16-3 さくらビル202

TEL 048-822-3690 FAX 048-825-3030

<http://saikouren.jp/>